

2026年3月期
第2四半期 決算説明資料

2025年11月14日



株式会社イワキ 証券コード:6237
銘柄名:イワキポンプ

I. 2026年3月期 第2四半期 決算概要 P.3

II. 2026年3月期 業績見通し P.14

III. NEXT10と中計2027 概略 P.19

IV. Appendix P.24

用語説明

会計

四半期(3ヵ月間)会計期間のこと。

累計

累計期間のこと。(1Q~2Q)

I. 2026年3月期 第2四半期 決算概要

連結売上高は前年同期より微増したものの、引き続き売上原価率上昇の影響を受け、売上総利益は減少。販管費は微減したものの、営業利益も前年同期比減となった。

	2025.3期 2Q	2026.3期 2Q		
	金額(百万円)	金額(百万円)	差額	増減率(前年同期比)
売上高	22,540	22,693	153	+0.7%
売上総利益 (売上総利益率)	9,227 (40.9%)	9,111 (40.1%)	▲115	▲1.3%
営業利益 (営業利益率)	2,771 (12.3%)	2,726 (12.0%)	▲45	▲1.6%
経常利益	3,102	3,231	128	+4.1%
親会社株主に帰属する 中間純利益	2,173	2,299	126	+5.8%
1株当たり中間純利益	98.37円	103.82円	+5.45円	+5.5%
為替レート (期中平均)	ドル	152.36円	148.41円	
	ユーロ	164.69円	162.25円	
	中国人民元	21.06円	20.44円	

1

売上高：水処理市場、化学市場は順調に推移したが、全体は前年同期比+0.7%の微増。

- 水処理市場・化学市場は米国を中心に順調に推移した。
- 台湾・韓国の半導体・液晶市場は好調。その影響でアジア地域は前年同期比+7.2%となった。
- 中国の半導体・液晶市場は、前年同期比での減少幅が縮小し底打ちした状況が見られるが、回復には未だ時間を要している。

2

営業利益：引き続き、在庫適正化への取り組みによる売上原価率の上昇の影響あり。

- 1Qに引き続き、在庫調整に伴う生産調整の影響により、原価率が上昇し、売上総利益は減少。
- 販管費は前年同期比微減したものの、売上総利益の減少を受け、営業利益は前年同期比▲1.6%となった。

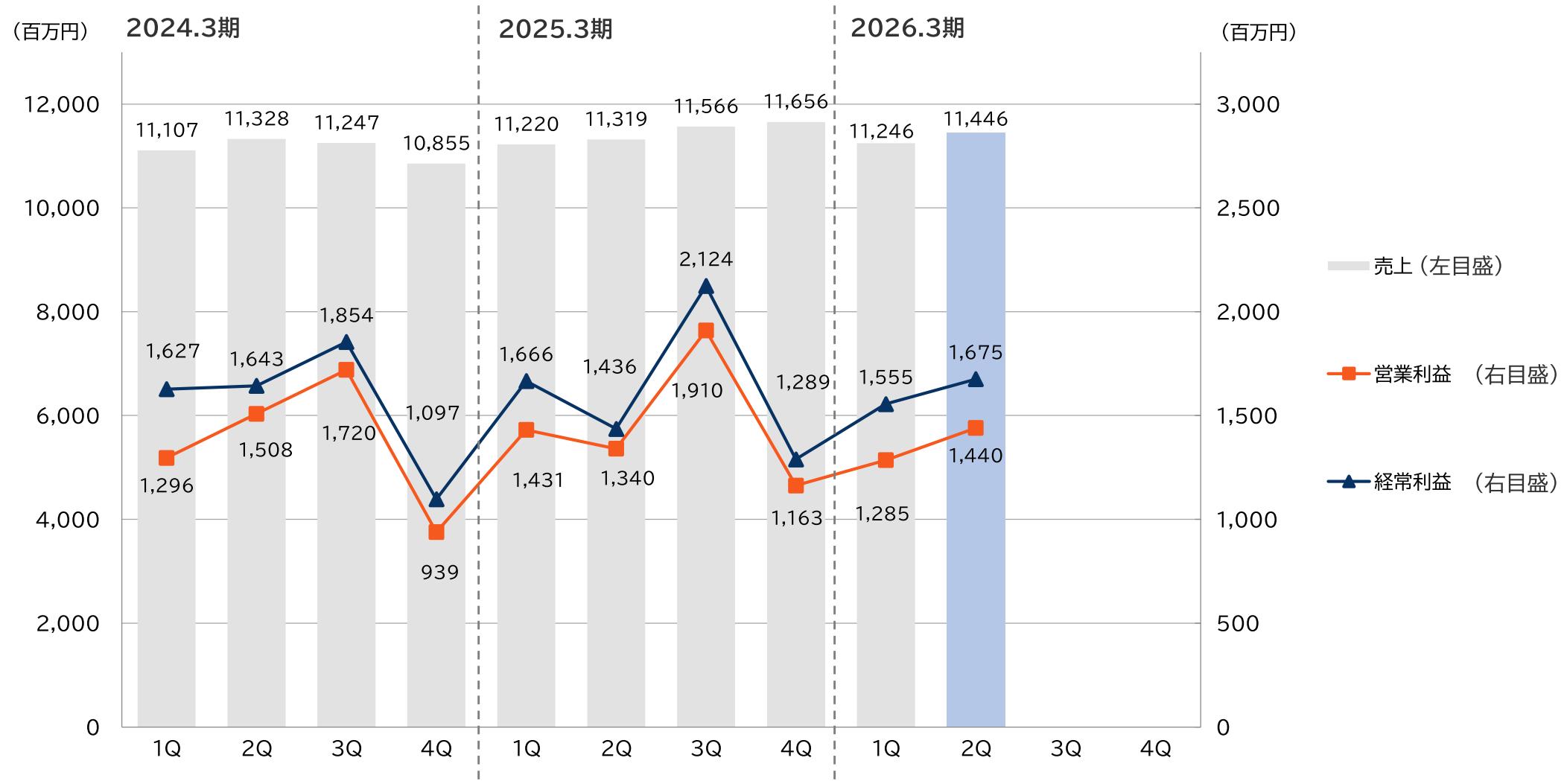
3

親会社株主に帰属する中間純利益：持分法による投資利益の増加、特別利益の発生などが寄与。

- 半導体・液晶市場が好調な台湾などの持分法による投資利益の増加、為替差損益(前期2Q累計▲15百万円→当期2Q累計+50百万円)などにより、経常利益以下の段階利益は前年同期比増。
- 子会社(IWP Holding Company Limited)清算に伴い、特別利益として12百万円を計上した影響もあり、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比+5.8%となった。

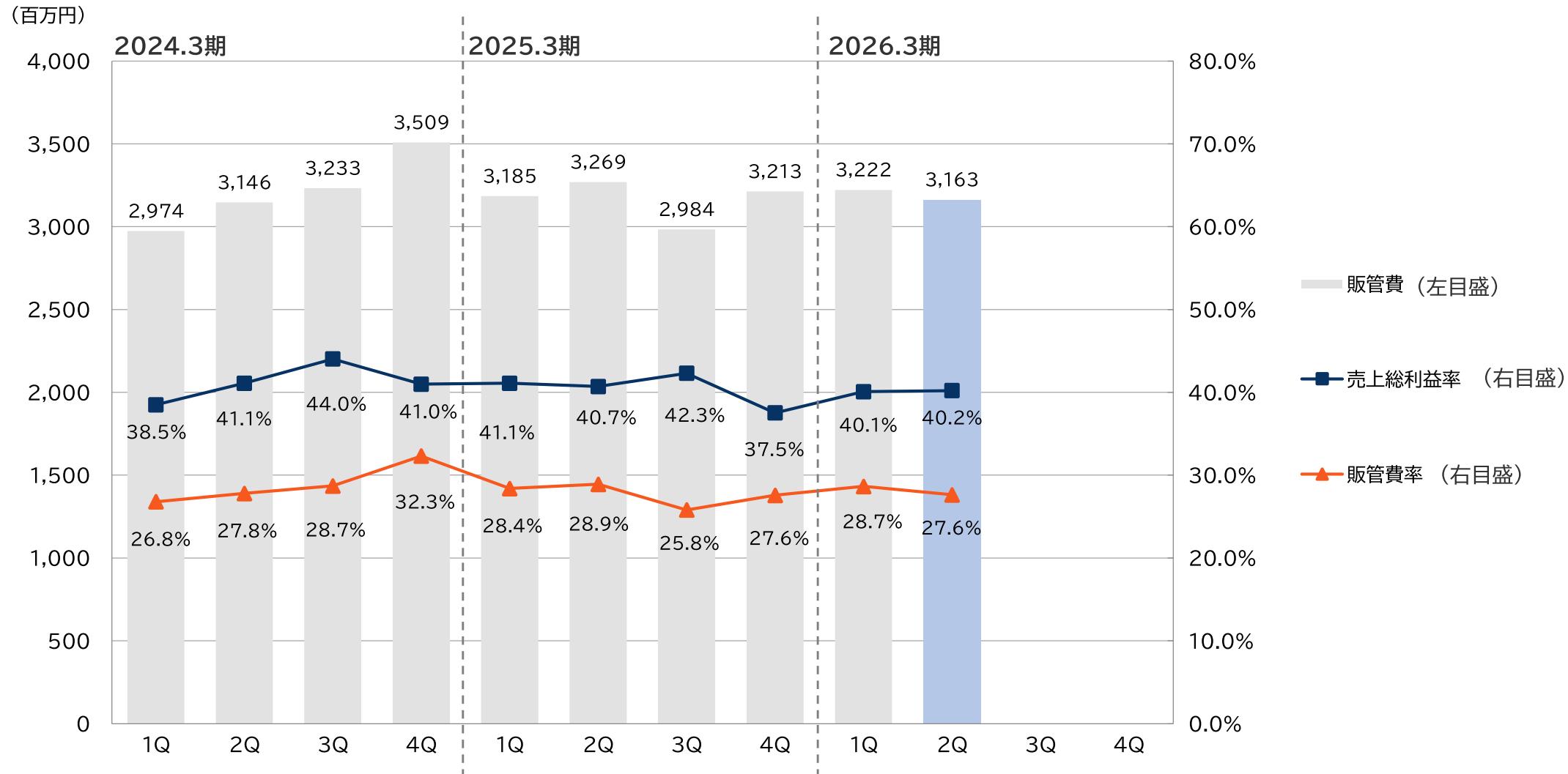
売上高・営業利益の推移(四半期ベース)

売上高四半期ベースでは各市場で増減が区々だが、全体では微増で、
営業利益、経常利益すべて直前四半期比増となつた。

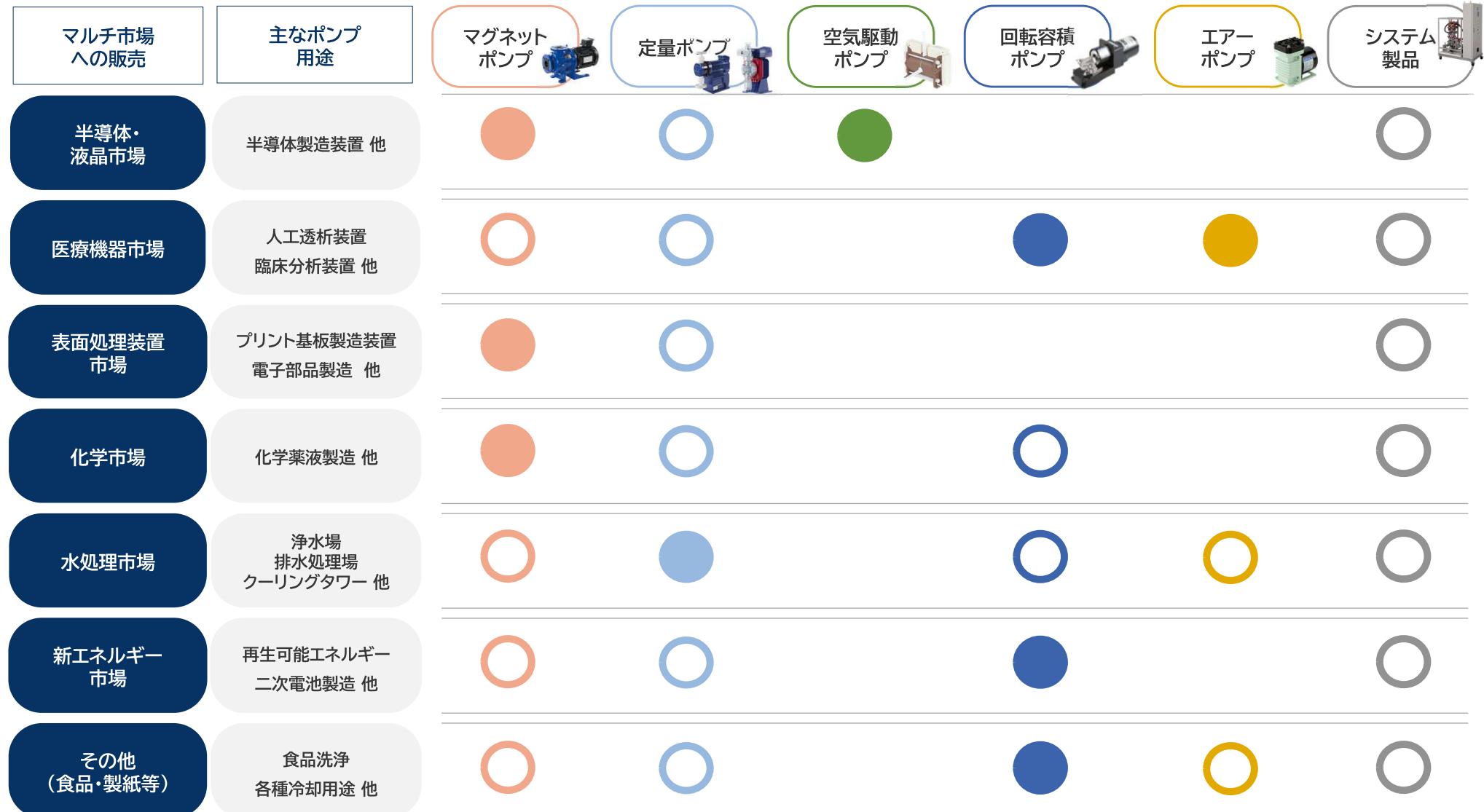


売上総利益率・販管費(率)の推移(四半期ベース)

売上原価率は累計では在庫調整に伴う生産調整の影響があるものの、直前四半期比では微減し、売上総利益率は微増。

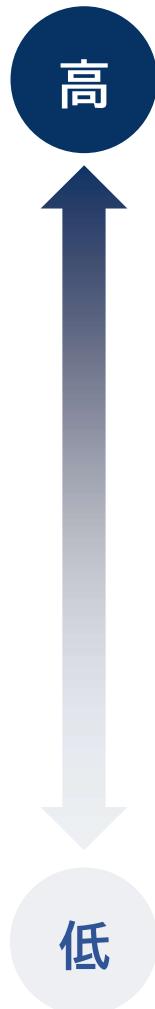


製品別 販売市場について

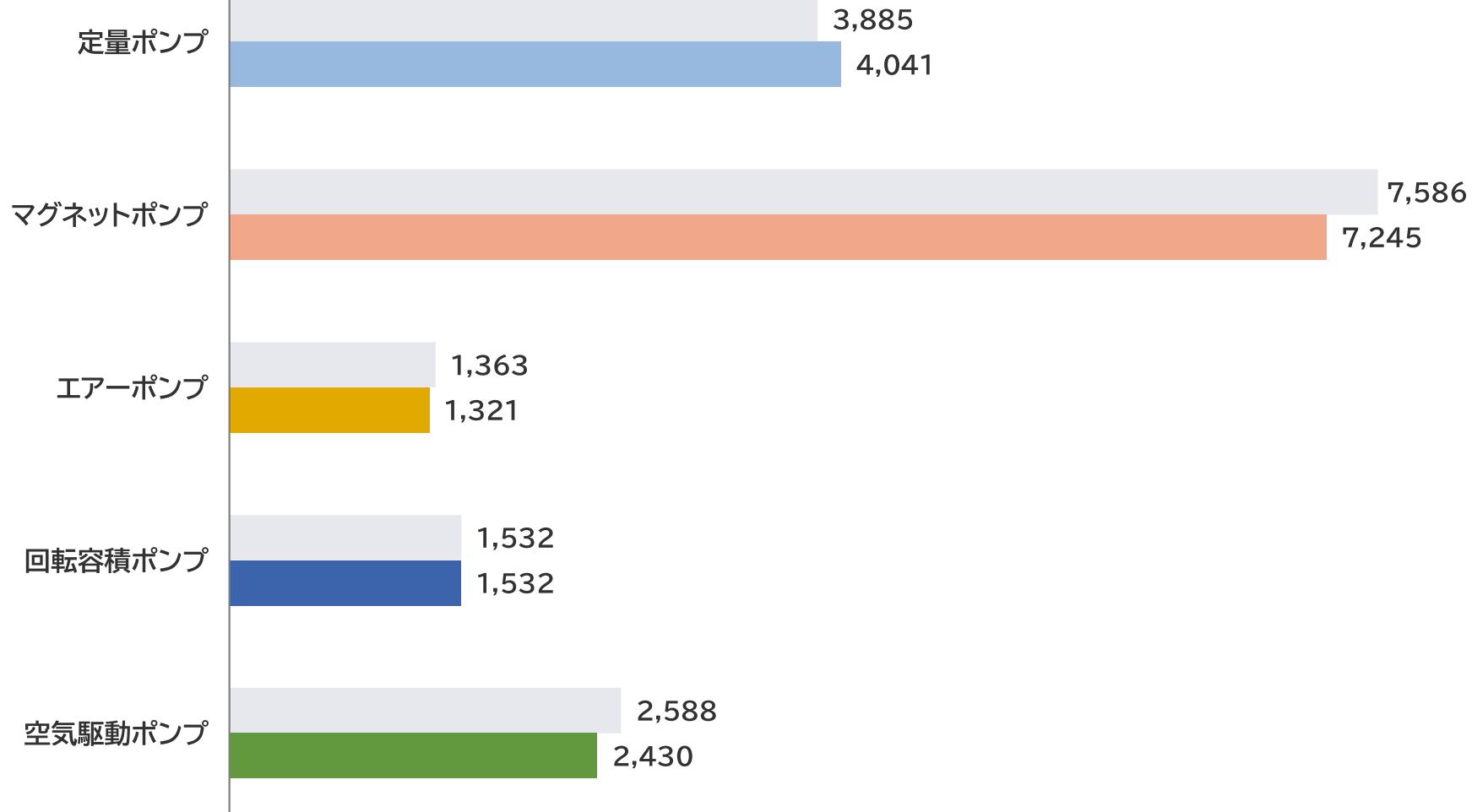


※ 塗りつぶし:各市場におけるメインポンプ

収益性



売上高(百万円) 上段:2025年3月期2Q 下段:2026年3月期2Q



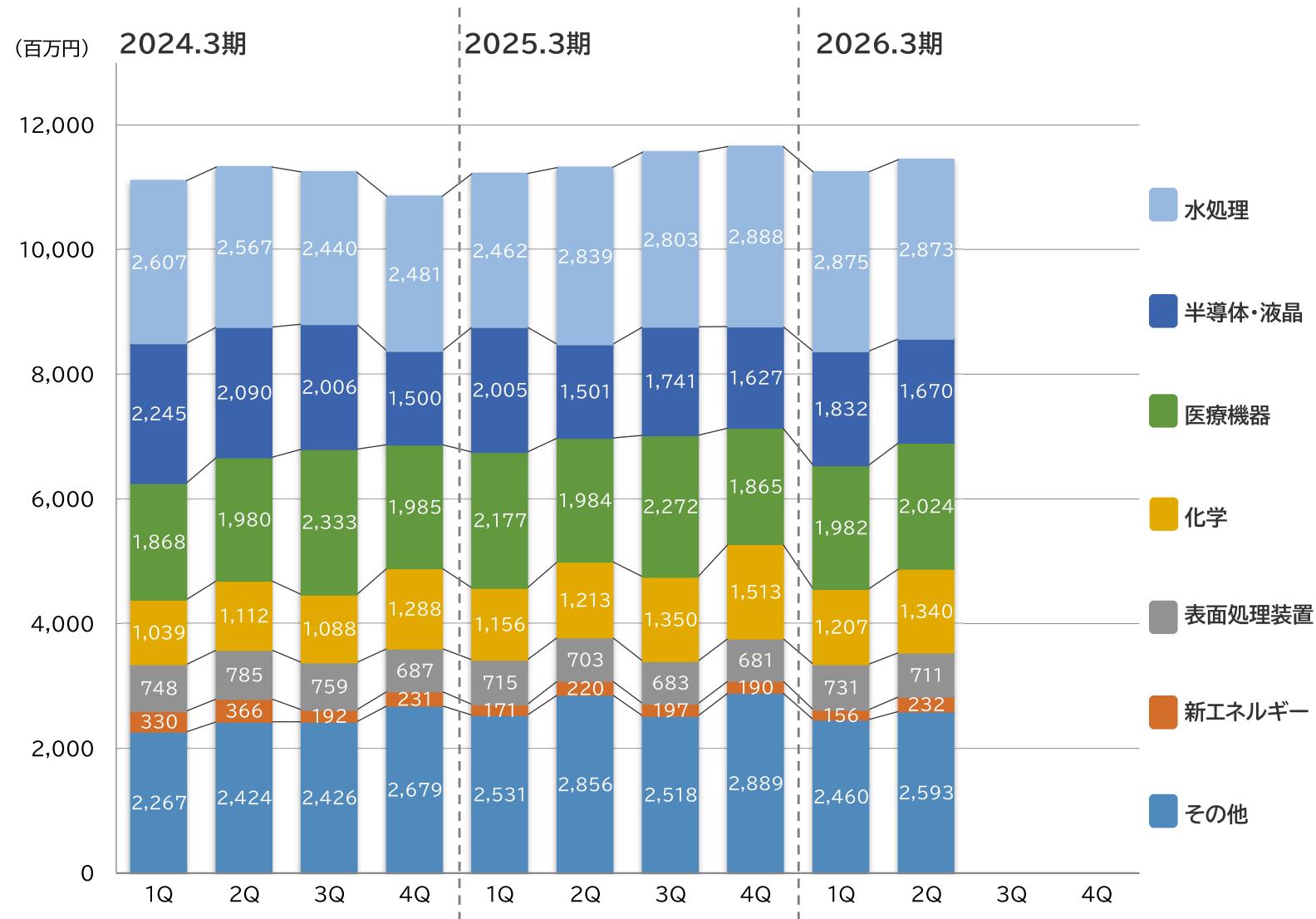
※システム製品、仕入商品、その他除く

会計

医療機器市場は香港が好調に推移し直前四半期比増。

累計

水処理市場および化学市場は米国が好調に推移し、前年同期比増となった。



2026.3期 2Q金額 (百万円)	前年同期 差額 (百万円)	増減率 (前年同期比)
5,749	447	+8.4%
3,502	▲4	▲0.1%
4,007	▲154	▲3.7%
2,548	177	+7.5%
1,442	23	+1.7%
389	▲2	▲0.6%
5,053	▲333	▲6.2%

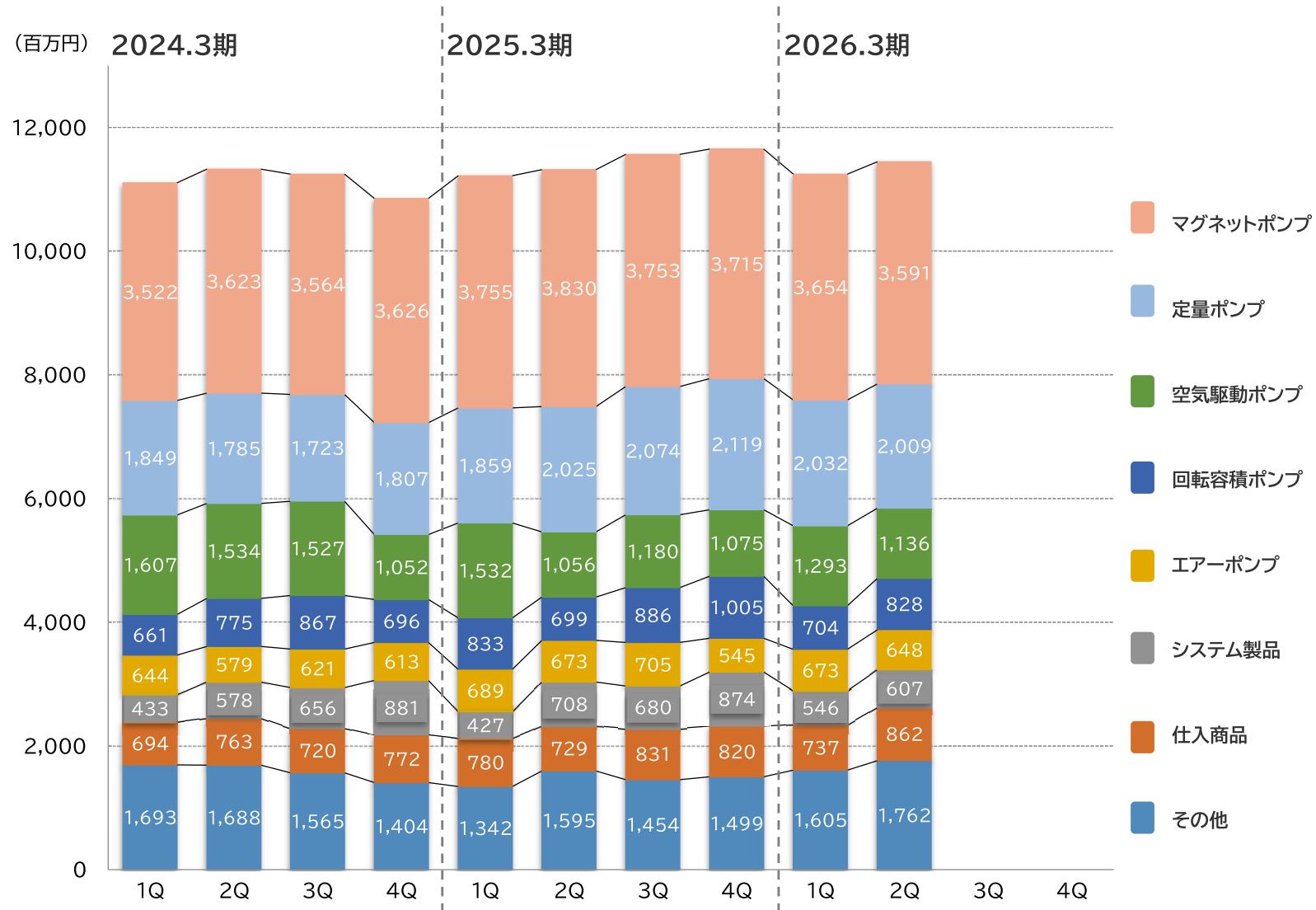
会計

回転容積ポンプは堅調な医療機器市場に比例し直前四半期比増。

累計

水処理市場の売上動向に比例し、同市場をメインとする定量ポンプが順調に推移。

空気駆動ポンプは半導体・液晶市場の低調影響により前年同期比減。



2026.3期 2Q金額 (百万円)	前年同期 差額 (百万円)	増減率 (前年同期比)
7,245	▲340	▲4.5%
4,041	156	+4.0%
2,430	▲158	▲6.1%
1,532	▲0	▲0.0%
1,321	▲41	▲3.0%
1,153	17	+1.5%
1,600	90	+6.0%
3,368	430	+14.7%

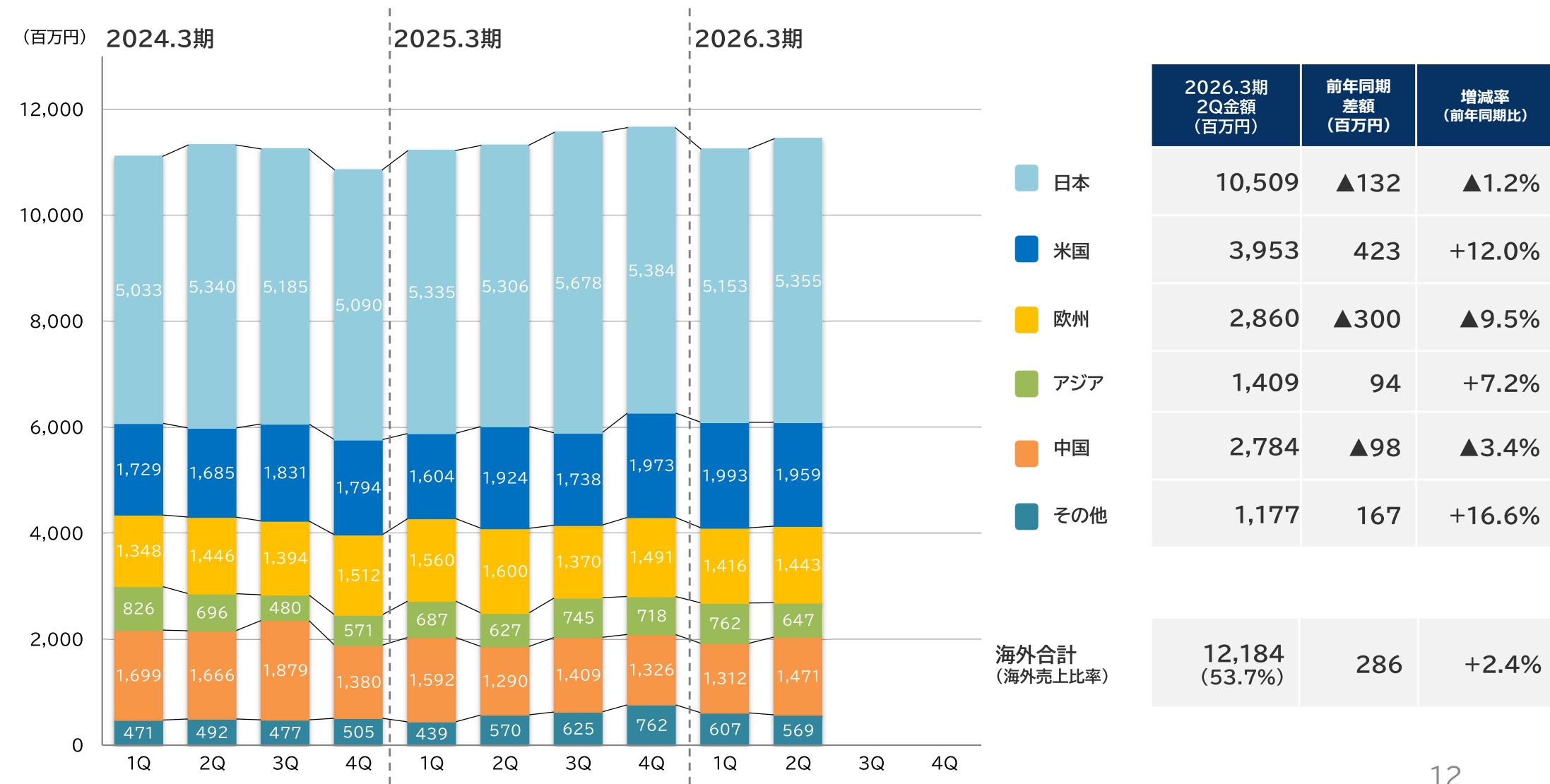
会計

各地域とも売上は直前四半期と同水準で推移した。

累計

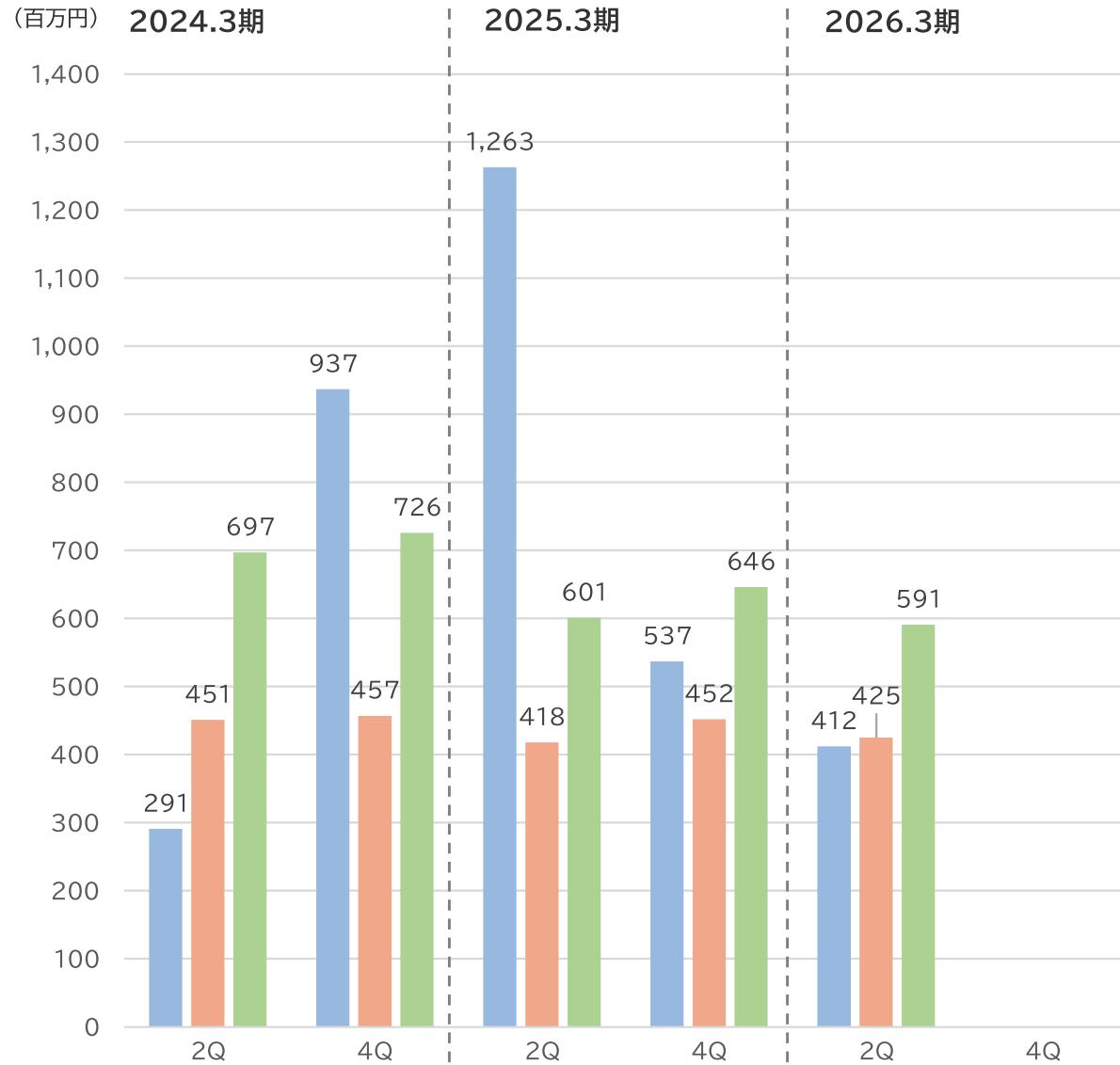
米国は水処理市場、化学市場が好調に推移した。

中国の半導体・液晶市場は減少幅が縮小し底打ちの兆しが見られるものの、回復にはなお時間を要する。





設備投資・研究開発費・減価償却費推移(半期毎)



2026.3月期 2Q累計金額 (百万円)	増減額 (前年比)
412	▲850
425	+7
591	▲9

※2025.3期2Q設備投資額の大幅増は、主にイワキアメリカの建物賃貸借契約更新によるものです。

II. 2026年3月期 業績見通し

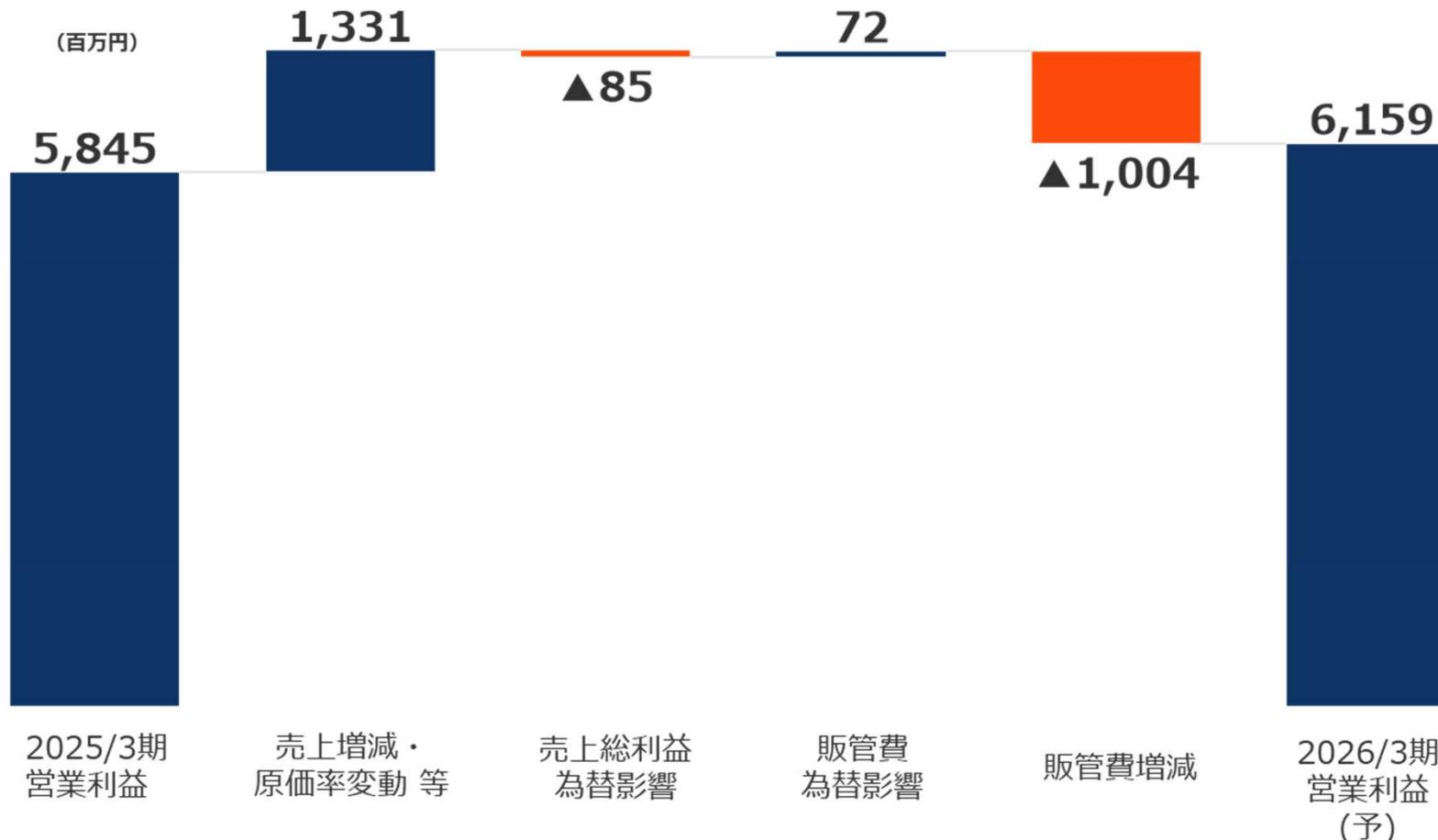
引き続き水処理市場の順調な伸びと、年度後半に向け、医療機器市場の伸長を想定しており、増収の見込み。
研究開発費の増加等により販管費増。
上期実績プラス下期業績見込みを鑑み、通期予想は据え置き。

	2025.3期	2026.3期		
	金額(百万円)	金額(百万円)	差額	増減率(前年比)
売上高	45,763	48,439	2,675	+5.8%
売上総利益 (売上総利益率)	18,498 (40.4%)	19,745 (40.8%)	1,246	+6.7%
営業利益 (営業利益率)	5,845 (12.8%)	6,159 (12.7%)	314	+5.4%
経常利益	6,517	6,601	84	+1.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,468	4,788	320	+7.2%
1株当たり当期純利益	202.15円	215.82円	13.68円	+6.8%
自己資本当期純利益率(ROE)	12.6%	12.2%	—	(▲0.4pt)
為替レート (期中平均)	ドル	151.69 円	148.00 円	
	ユーロ	164.04 円	162.00 円	
	中国人民元	21.03 円	21.30 円	

2026年3月期 業績予想 増減益分析

下期: 為替1円当たりの感応度	USドル	ユーロ	中国人民币
売上	37百万円	20百万円	158百万円
営業利益	3百万円	6百万円	67百万円

※下期の為替感応度です。「通期予想-上期実績」に進捗度合いを按分して算出。

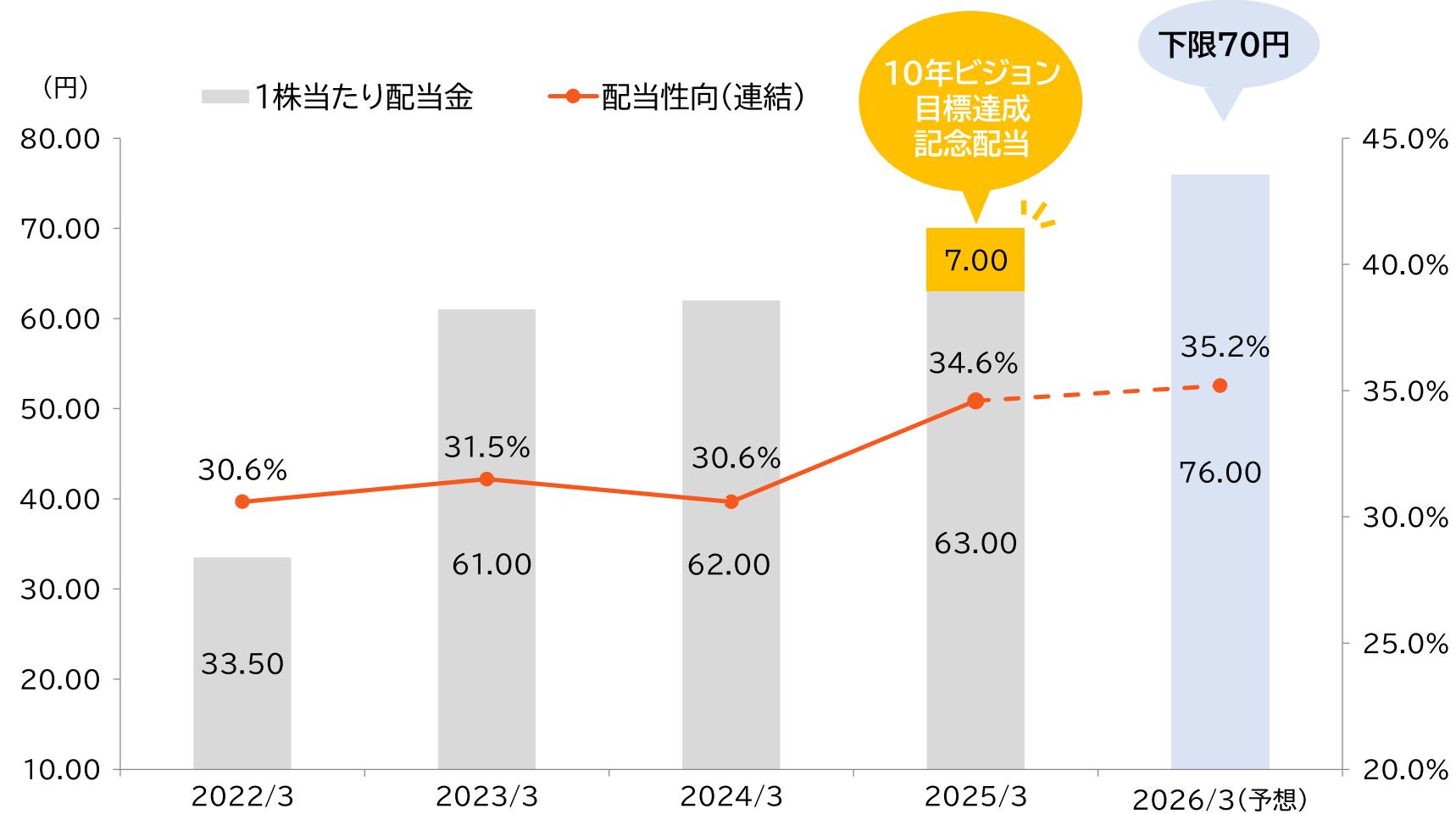


各市場	国内	海外
水処理市場	<ul style="list-style-type: none"> 官需新規案件、修繕案件が鈍化。民需は一般産業廃水が好調を継続。 インバウンド需要の増加に伴い、滅菌市場、イオン水市場が好調。 食の安心安全、災害対策等の観点より、水耕土耕栽培市場、pH管理市場が好調。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害対策に関する上下水道の整備投資が堅調。 一般産業向けでの設備投資が堅調。 米国の関税政策が市場に影響を及ぼす懸念がある。
新エネルギー市場	<ul style="list-style-type: none"> 電池セルメーカー、材料、リサイクル関連への投資が活発。 水素/CN関連は大型投資撤退が目立つも、開発需要は堅調。 家庭用燃料電池は国の補助金もあり生産は回復傾向だが、在庫調整が続き、見通しは低調。 	<ul style="list-style-type: none"> 欧州、中国でEV車の販売が回復基調であるが、バッテリー設備投資は低調な状況で需要減速。 欧州・中国では水素/CO2回収の投資が増加傾向。
医療機器市場	<ul style="list-style-type: none"> 各社とも先行手配していた部材が捌け、通常の生産計画体制に戻りつつある。 米中関係の懸念を筆頭に、世界情勢の先行き不透明感が浸透しているが、円安の影響から分析ルートについては、北米需要が緩やかな復調基調にある。 人工透析装置については回復傾向にある。 内視鏡洗浄装置については横ばいとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 市場全体としては装置メーカー各社在庫調整が想定より長期化し対応に苦慮している。 物流の混乱は徐々に落ち着きを取り戻しつつあるが、米国の関税政策が市場に影響を及ぼしているか、引き続き今後の動向を注視する。
半導体・液晶市場	<ul style="list-style-type: none"> 想定されていた半導体市況の回復が後ずれ。 当該製造装置メーカーでの在庫調整が継続する見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> 想定されていた半導体市況回復後ずれの影響を受けており、一部地域で見られていた回復の兆しも米国関税の影響を見極めるために停滞。
化学市場	<ul style="list-style-type: none"> 製薬/化粧品、石油化学、高分子などが好調。 市場全体として堅調に推移。 	<ul style="list-style-type: none"> 欧州・中国では二次電池材料の過剰投資の影響で減少傾向にあり先行き不透明。 欧州はエネルギー不足による投資意欲の低下が継続。 米国の関税政策が市場に影響を及ぼす懸念が継続してある。
表面処理装置市場	<ul style="list-style-type: none"> 設備投資鈍化により不透明感あり。 電子部品市場の成長鈍化傾向。 	<ul style="list-style-type: none"> アジアでは緩やかに回復傾向にある。 米国の関税政策が市場に影響を及ぼす懸念がある。

※ 赤字はネガティブな見通し

配当性向35%以上・下限配当70円(2026年3月期～2028年3月期)

※なお、非経常的な特殊要因により親会社株主に帰属する当期純利益が大きく変動する場合は、その影響を除いて配当金額を決定することがあります。



III. NEXT10と中計2027 概略

NEXT10におけるトップメッセージ

ありたい姿

これからの暮らしの流れを支える

Aid daily life globally, evolving for future needs.

「イワキグループビジョン NEXT10」(以下、NEXT10)では、
経営理念体系における「ありたい姿」をトップメッセージとする。

定性目標

「ありたい姿」とその「ありたい姿」の実現に向けた基本方針を定性目標とする。



これからの暮らしの流れを支える

Aid daily life globally, evolving for future needs.



基本方針

事業活動を通じて世界中の IWAKI ファン を増やし、持続可能な世の中づくりに貢献する。

定量目標

2035年3月期

連結売上高 **1,000 億円**

連結営業利益率 **15%以上** を維持継続

10年ビジョンで実現した「10年で事業規模を2倍にする」に改めてチャレンジする。

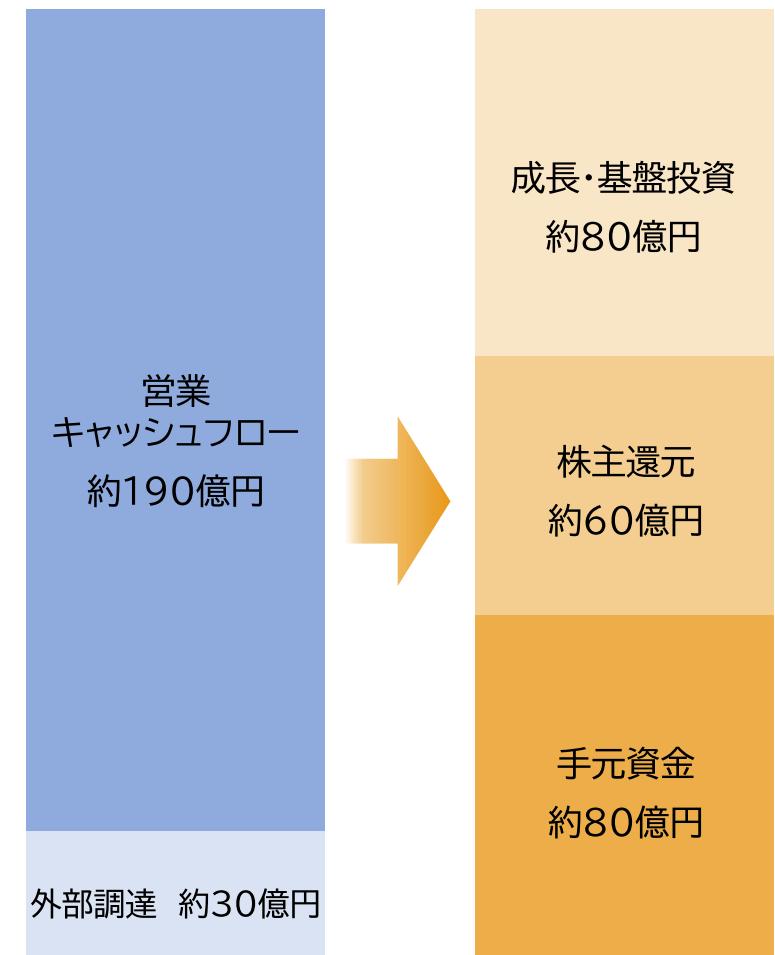


中期経営計画2027では着実な成長と、将来の飛躍に向けた基盤固めを実行する。

財務目標

	2025.3期	2028.3期
	金額(百万円)	金額(百万円)
売上高	457.6億円	530億円
国内	217.0億円	235億円
	240.6億円	295億円
営業利益	58.4億円	69億円
営業利益率	12.8%	13%
ROE	12.6%	12%以上の維持
在庫回転日数	193.8日	150日

キャッシュアロケーション



非財務目標

1 地球環境との共生

- ・連結GHG排出量(Scope1+2)の削減: 2027年度に2020年度比で39%削減
- ・CDP気候変動スコアB 維持

※主な項目のみ抜粋

詳細は2025年3月期 有価証券報告書P.18をご参照ください

https://ssl4.eir-parts.net/doc/6237/yaho_pdf/S100W3U3/00.pdf

2 製品の安全性と品質の追求

- ・重大な品質クレームの発生件数: 0件
- ・ソリューション営業による売上の拡大

3 環境や人権に配慮した調達の推進

- ・国内主要取引先へのSAQ実施
- ・SAQに関する定量目標の設定

4 持続的成長を支える人材基盤の整備

- ・エンゲージメントスコアの継続改善
- ・育児・介護休業後の復帰率: 100%

5 ガバナンスの強化とコンプライアンスの徹底

- ・積極的で適切な情報開示: 開示内容の継続改善
- ・取締役会の実効性向上: 取締役会実効性評価に基づく継続的な改善

IV. Appendix



会 社 名 株式会社イワキ(英文名 IWAKI CO., LTD.)



ケミカルポンプ の専業・総合メーカー

設 立 1956年4月10日

代表取締役社長 藤中 茂

本 社 東京都千代田区神田須田町二丁目6番6号

資 本 金 10億4,469万円

従 業 員 数 連 結:1,121人 / 単 体:788人(2025年3月31現在)

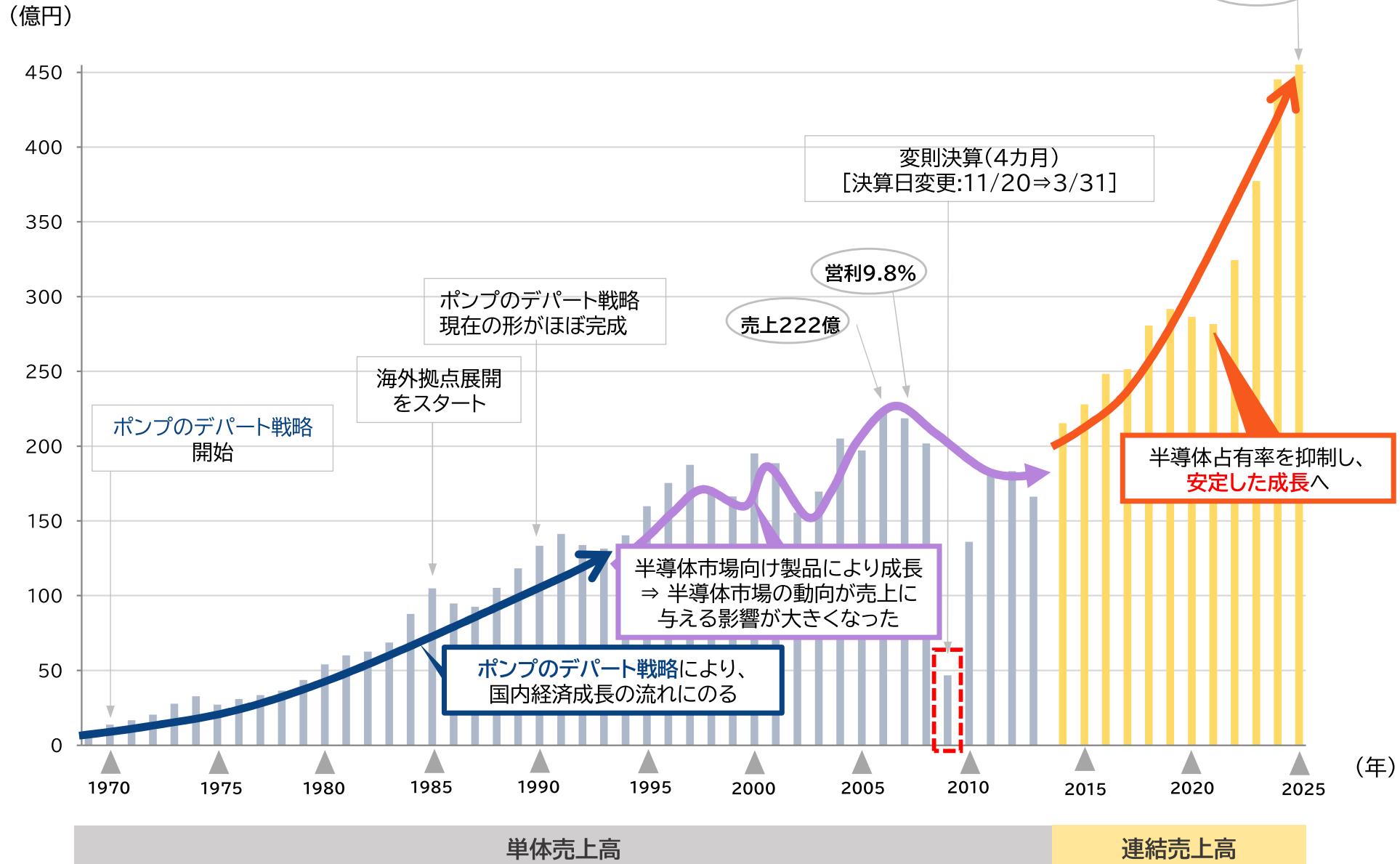
事 業 内 容 ケミカルポンプ及びポンプ専用コントローラ等の周辺機器の開発・製造、仕入及び販売 等

上 場 取 引 所 東京証券取引所

銘柄名:イワキポンプ／証券コード:6237

市場:東証プライム市場

売上高の推移



ケミカルポンプとは



化学薬品等の薬液移送に使用されるポンプ



水を扱うポンプとは異なり、
ケミカルポンプは主に薬液等の移送時に使用される。
中には(人体に有害な硫酸等)危険な液体もある。



非常に高い**安全性**(漏れないこと)
が求められる

1

お客様の様々な要望にお応えできる
豊富な製品ラインナップ

2

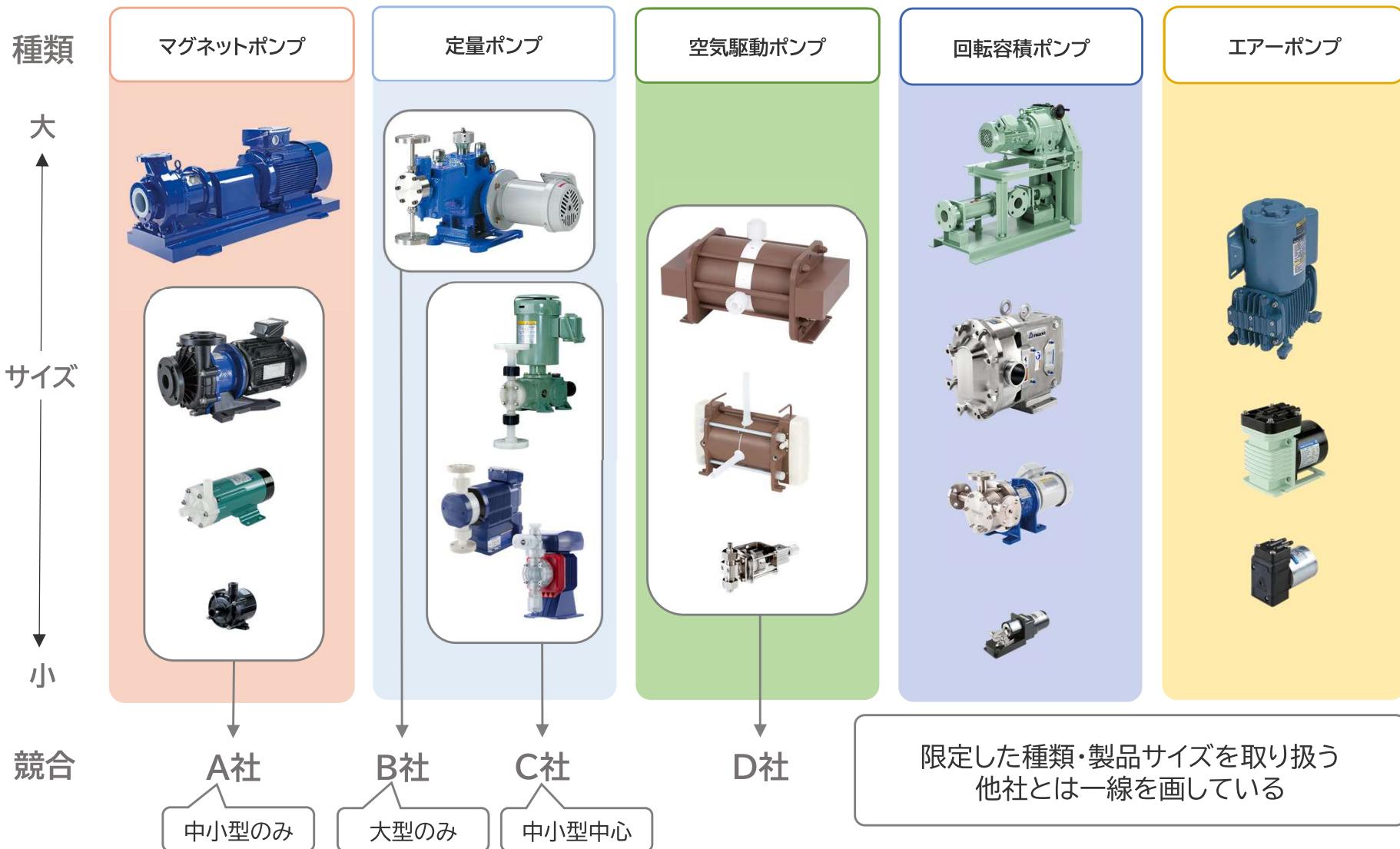
お客様への強力なサポートが可能な
世界規模の生産・販売・サポート体制

3

製品であるポンプを中心に
「流体を制御する」機能でソリューションも提供

各種ポンプ60シリーズ以上、数万点にのぼる型式を展開

あらゆる業界・現場の流体制御ニーズに、ワンストップで応える



多品種少量生産を強みとしながら、**年間約80万台の生産能力**を有する

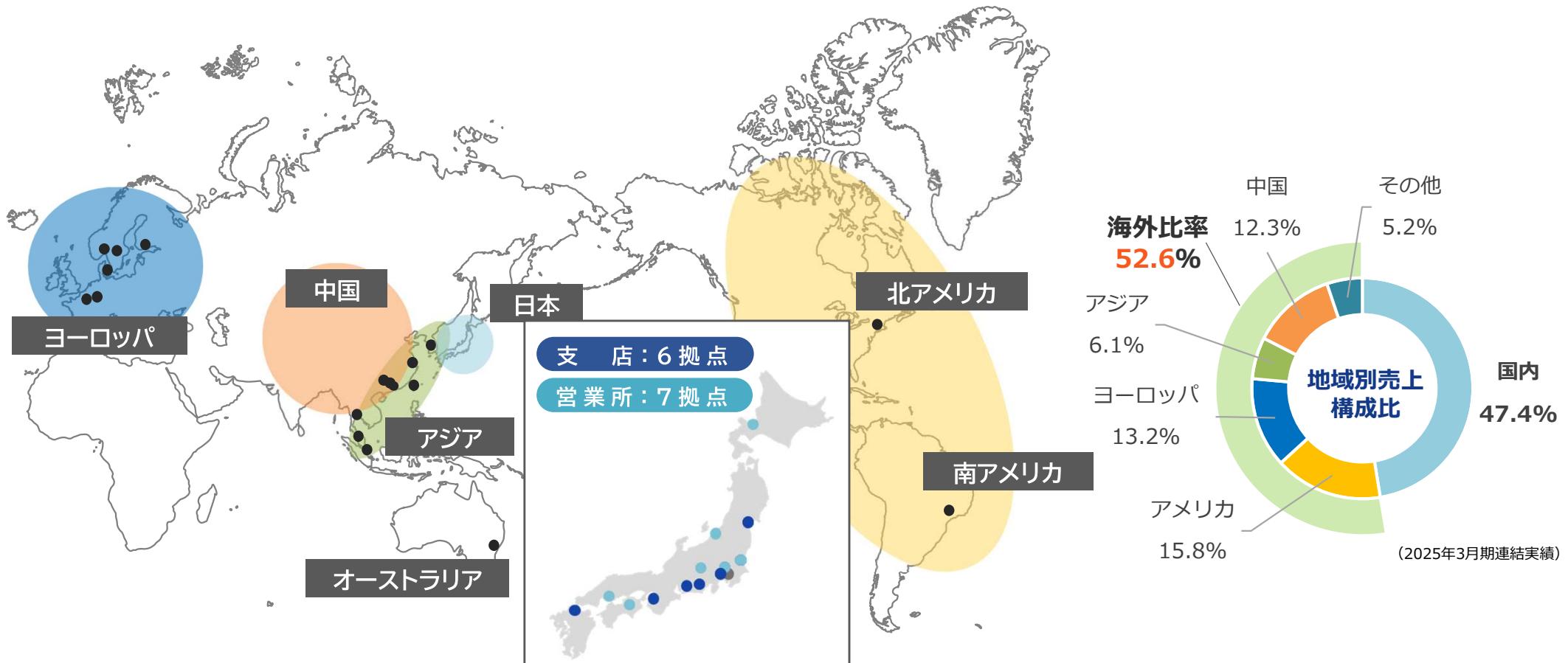
国内 … 多品種少量生産。強固な品質保証体制

海外 … 6拠点でのノックダウン生産*により短納期・在庫効率化

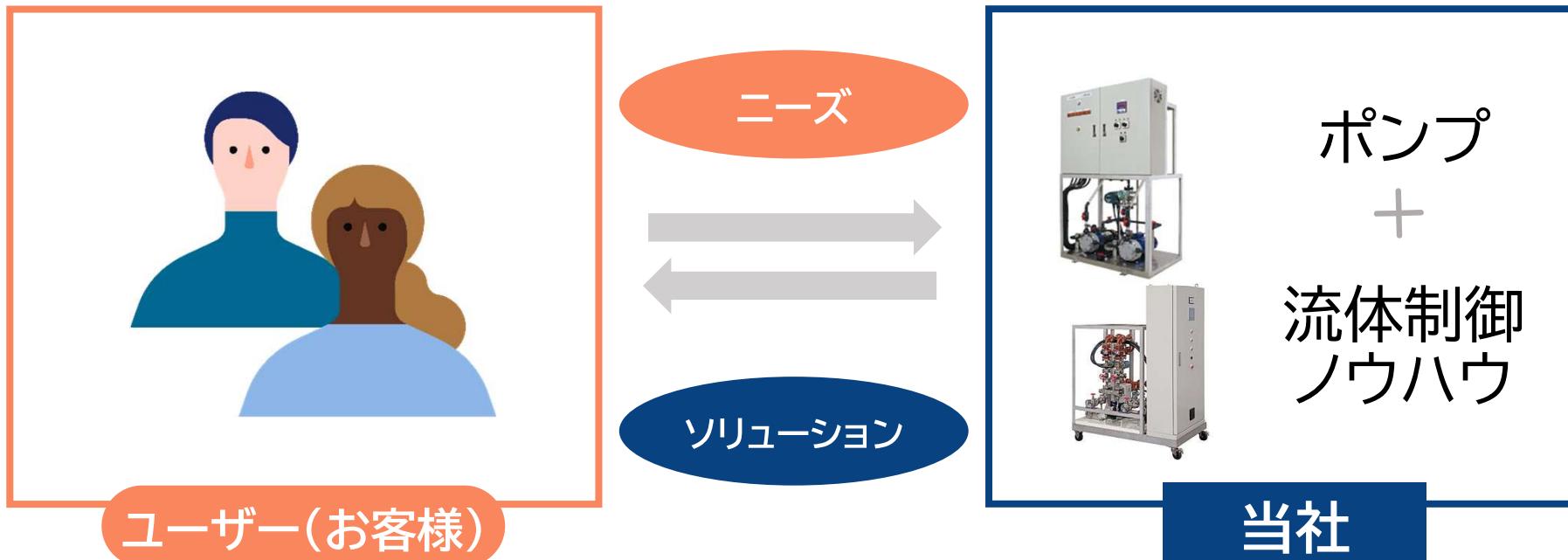
(*ノックダウン生産 … 製品の主要部品を輸出し、現地で組立する方式)



本社のほか国内主要13都市に支店・営業所を展開し、
15カ国19社のグループ会社で、ワールドワイドな販売・サービス網を構築



お客様のニーズにあったソリューションを
ポンプと流体制御ノウハウを活用し提供



例えばこんなお悩みを解決



廃水処理装置を、モニタリングだけでなく緊急時の操作も遠隔で行いたい…
ヨーグルトと果肉ソースを、果肉をつぶさずに混ぜたい…



The Heart of Industry

社会の発展と人々の幸福に寄与すべく、
これからも常に最前線で産業を支えてまいります。